

# 平和への願いを込めて



## 「平和都市宣言推進事業『平和の旅』」

8月6日(火)、野々市・布水両中学校から14人の生徒が広島市の平和記念式典に参加し、平和への祈りをささげました。式典前日の5日(火)には、原爆の子の像の前で布水中学校の川畑祐貴さんが自身の思いをつづった平和宣言文を読み上げ、平和への誓いを新たにするとともに、両中学校の生徒が作成した折り鶴をささげました。参加した生徒の感想を一部紹介します。

## 平和を目指して

布水中学校3年 西田 琳音

「自国を守るためには、核兵器の保有もやむを得ない。」という考え方は国際社会が過去の悲惨な歴史から得た教訓を無にする。」

これは平和記念式典での平和宣言の中で最も共感した言葉です。

僕は、この平和の旅を通して、平和の意味とは何なのかを深く考えることができたと思います。一般的に、平和は争いがなく穏やかなこととして捉えられるため、ゴールは争いを無くすことだと思っていました。しかし、平和を実現することは、争いを無くした後が重要だと気づきました。つまり、争いを無くすことは平和への第一歩に過ぎないのだと思います。争いは考え方の違いによって生まれるため、これを無くそうと思うと一方の考え方を無理やり否定することになりかねません。わだかまりが残ったままではこの先ずっと争いが起こるこ

とはないと言い切れるのでしょうか。

広島、そして長崎への原子爆弾の投下は「核兵器なら戦争を止めることができる」という誤った考え方を世界にもたらしました。そのため、戦争に勝利して自国を守るために核兵器を使い、他国との競争や威嚇の道具として作り続けているということを知りました。そして、現在でも戦争が各地で起きていることを考えるととても残念なことだと思います。あれほど大きな被害を出した1945年8月6日のことを風化させてはいけません。「過去の悲惨な歴史から得た教訓」これは、一人一人が心の底から感じる必要があると思います。そのためには、実際に見て考えるのが一番だと思います。現地に行ってみることが難しくても、ニュースを真剣に見てみたり、インターネットで調べたりなどでも十分だと思うので、まずは自らの意識を向けて、学びの機会を増やしていきたいと思っています。

## 平和のために

野々市中学校3年 西村 茉陽

私は今回、平和の旅に参加して実際に広島に行き、自分の目で原爆ドームや原爆の子の像を見たり、原爆資料館に入ったり、平和記念式典に参加したりとあまり経験できないことを経験させてもらって「平和」について深く考えることができました。

原爆資料館では、当時原爆の被害にあった方たちの服や自転車は放射線や熱風などでボロボロになっていました。他にも顔を背けたくなるような悲惨な写真やイラストが沢山ありました。

そして写真や映像などでは何回も原爆ドームを見たことがありましたが、実際に見ると酷くボロボロで爆風の熱で溶けてしまったそうです。銅板が溶けるほどの熱を人々が浴び苦しんでいたと考えると、原爆は本

当に強力で残酷な物だと改めて思いました。

そして広島には原爆ドーム、平和の灯、原爆死没者慰霊碑、祈りの泉、この4つが一直線となっており、これは広島復興、慰霊、恒久平和の強い思いが込められているということとをツアーガイドさんに教えていただきました。

私たちは今何気ない日々を過ごしていますが、これはあたりまえのことではないのです。この世界で今も戦争が起きている国もあります。だからこそこれから先、同じような過ちを繰り返さないように、そして沢山の人の命や未来を消さないように、決して他人事だと思わずに私たち一人一人が戦争の恐ろしさを、核兵器の恐ろしさを知り、次世代へと伝えていくことが大切だと私は考えました。もう二度と人々が苦しむことがないように。



平和記念式典後の献花



原爆ドーム前